

SHIRAKOBATO

# しらこぼと



1993. **S**

SOCIETY OF JAPAN · SAITAMA

WILD BIRD



NO. 112

日本野鳥の会 埼玉県支部

# 総会報告 継続の一步

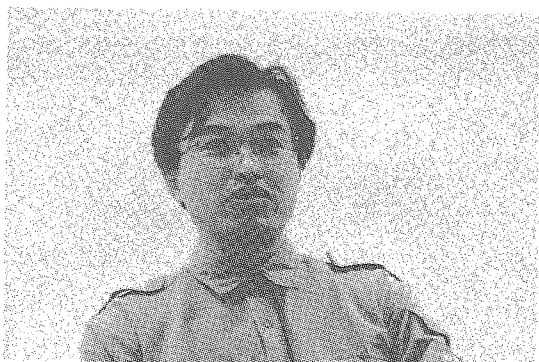
6月27日(日)北本市の埼玉県自然学習センター講義室において、平成5年度(第9回)支部総会が開催されました。

## 午前中の臨時探鳥会

参加者22名。バンやカルガモの親子連れなどを見て歩きました。この日のゲスト、本部の高井健慈保護部計画室長も、実は町田式ビデオウイルスの二次感染者。買ったばかりの液晶ビデオが注目を集めていました。

## 記念講演

日本野鳥の会の推進するサンクチュアリ活動とはどういうものか、高井講師(写真下)が分かりやすく講演。質問もあいついで、予定時間をオーバーする熱気でした。



## 総会

内藤義雄の司会で、岡安征也が議長、登坂久雄が書記、榎本秀和と佐久間博文が議事録署名名人に選出されて議事が進行。探鳥会は年間91回開催して、合計参加者数は3,686人であったことなど、各部の部長と海老原美夫事務局長が説明に当たり、質疑応答の後、平成4年度事業報告と決算、平成5年度事業計画案と予算案、役員選出が、異議なく可決されました。

## 5年度役員

顧問 鈴木忠雄(熊谷市)  
堀越照雄(熊谷市)

支 部 長 松井昭吾(大宮市)  
副支部長 海老原美夫(浦和市)  
研究部長 小荷田行男(浦和市)  
記録委員長 小林みどり(藤沢市)  
普及部長 中島康夫(蓮田市)  
事業部長 福井恒人(浦和市)  
編集部長 山部直喜(越谷市)  
幹 事 石井幸男(川越市)  
伊藤芳晴(浦和市)  
榎本秀和(鴻巣市)  
岡安征也(北本市)  
笠原伸子(浦和市)  
草間和子(浦和市)  
黒田佳子(新座市)  
佐久間博文(川越市)  
杉本秀樹(杉並区)  
田口浩司(浦和市)  
立岩恒久(桶川市)  
手塚正義(川口市)  
登坂久雄(八王子市)  
内藤義雄(鴻巣市)  
長谷部謙二(川越市)  
馬場 昇(大宮市)  
林 慎一(大宮市)  
菱沼一充(熊谷市)  
藤原寛治(大宮市)  
町田好一郎(本庄市)  
三田長久(狭山市)  
森本國夫(熊谷市)  
柳原正昭(川越市)  
吉原俊雄(北本市)  
渡辺周司(大宮市)  
監 事 石川敏男(春日部市)  
楠見邦博(浦和市)

新役員の選出はありませんでした。今年度は今までの役員会のあり方を見直し、充実活

性を図りたいとの考え方から、推薦が見送られたわけです。

前年度まで役員としてご活躍いただいた北川慎一氏、乗田実氏、林滋氏は、それぞれの都合により、しばらく役員活動を休みます。

4年度決算と5年度予算  
[収入]

項 目	4年度決算	5年度予算
期首繰越金	2,961,857	3,447,727
会費収入	3,204,430	3,600,000
寄付金収入	284,677	300,000
探鳥会等参加費	354,739	300,000
雑収入	85,306	100,000
仮払金清算	4,264	0
補助金	350,000	300,000
事業部売上金額	1,839,126	2,000,000
合 計	9,084,399	10,047,727

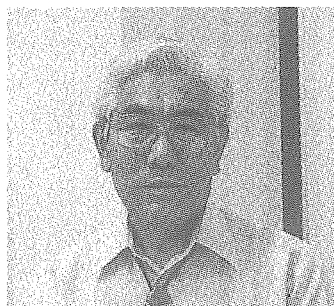
[支出]

項 目	4年度決算	5年度予算
什器備品費	132,875	500,000
消耗品費	52,791	100,000
支部報印刷費	1,073,366	1,500,000
支部報発送料	761,116	900,000
印刷コピー代	299,214	450,000
通信費	154,199	200,000
雑費	173,630	180,000
家賃	972,800	900,000
水道光熱費	51,345	60,000
総務部費用	79,313	110,000
普及部費用	100,046	140,000
編集部費用	40,000	40,000
研究部費用	100,000	30,000
事業部費用	7,275	20,000
短期借入金返済	210,000	0
仮入金清算	21,658	0
事業部仕入額	1,407,044	1,600,000
期末繰越金	3,447,727	3,317,727
合 計	9,084,399	10,047,727

繰越金の額についても役員会で議論されましたが、将来考えられる専従事務職員の雇用やささまざまな事態に対しある程度のそなえは必要であり、その意味では大きすぎる金額とは言えないとの意見で一致しました。

埼玉県支部の皆様へ

支部長 松井 昭 吾



昨年6月に鈴木前支部長から重責を引き継ぎ、早くも1年が経過しました。私は、元来このよう職責には向いていないことは、私自身良く承知しておりましたが、役員、リーダー、さらに会員の皆様のチームワークにより、無事に乗り切ることができました。心からお礼申し上げます。

会員数も順調に伸び、100回近い探鳥会、定着したリーダー研修会、全国有数の事業部売り上げ実績等々、まずは健全経営といえるでしょう。これらのすべては会員のボランティア活動に支えられているもので、そのご苦労は、大変なものと思います。しかし、そのような地道な活動から、当支部の特色である「親しみやすさ」が生まれてくるものと、私は大変誇らしく思っています。

今後とも皆さんと一緒に、誰からも親しんでいただける支部をもちたてていくために微力を尽くしたいと思っておりますので、よろしくご協力のほど、お願い申し上げます。

ごめんなさいコーナー

先月号特集記事、「ツバメチドリの観察(1992年)」の執筆者は、本庄市の町田好一郎さんです。

8) モビングの、カルガモ、コチドリ、シロチドリは、「無関心」のグループでした。「モビングした相手」「モビングされた相手」「無関心」の3グループとしてお読みください。

昨年から執筆・編集作業を進めていた本が、7月10日ついに発行されました。

(有) 幹書房(浦和市)発行の見て歩きシリーズ⑨『埼玉見て歩き・県北版』A5版68ページ、定価 900円。県北の自然散策コース14を紹介しています。

- ①さきたま古墳公園を歩く(内藤義雄)
- ②大利根の流れと羽生水郷公園(内藤義雄)
- ③北の見沼代用水を歩く(海老原美夫)
- ④水産試験場から葛西用水に沿って(渡辺敦)
- ⑤渡良瀬遊水池を訪ねて

遊水池を散策するコース(山岡百合子)

遊水池で鳥を見るコース(中島康夫)

- ⑥葛和田の渡しと『花埋み』の里(吉原俊雄)
- ⑦妻沼聖天山から利根川刀水橋(海老原美夫)
- ⑧久下の堤防から熊谷桜堤へ(塚本典子)
- ⑨大麻生野鳥の森から観音山へ(菱沼一充)
- ⑩畠山重忠ゆかりの地と農林公園(小淵健二)
- ⑪瀧宮神社から仙元山公園へ(菱沼一充)
- ⑫本庄旧跡めぐりと阪東大橋(町田好一郎)
- ⑬神流湖と城峯の自然を楽しむ(田口浩司)
- ⑭金鑽神社と元三大師を訪ねて(森本國夫)

コラム 水辺の歴史(大館勝治)

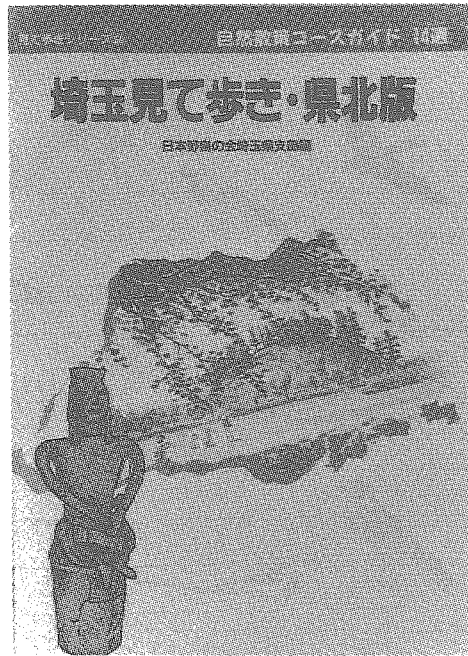
県北の野草(長須房次郎)

荒川の野鳥たち(菱沼一充)

利根川の野鳥たち(町田好一郎)

野鳥も人も地球の仲間(海老原美夫)

口絵写真 町田好一郎



写真協力 松井昭吾 田阪登史

会員たちが何度も歩いて紹介する各コースは、魅力にあふれています。歩くことこそ、自然保護の第1歩。執筆者たちのそんな思いが伝わります。

一般書店の郷土の本コーナーなどにもありますが、支部の探鳥会などにはできるだけ用意しますので、手に取ってご覧ください。

## 野鳥記録委員会最新情報

### ●シベリアジュリンの確認

5月号掲載のシベリアジュリンは、5月11日に開催された本部の野鳥記録検討会で公式記録となりました。それにともない、当委員会でも、確認記録に加えることとします。本県初記録。

### ●サバンナシトド

1991年11月13日浦和市内秋ヶ瀬で上田恵介・内田博・岡崎立の3名がバンディング調査中に捕獲。写真(右)や測定値から、山階

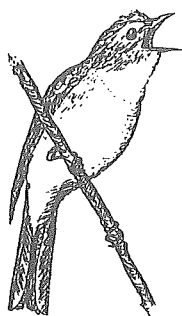
鳥研の茂田良光がサバンナシトド♀と同定しました。本県初記録。



浮島探鳥会に参加して

篠崎道子(大宮南)

6月12日。天気は快晴、風はない。53名の心やさしい鳥仲間を乗せたバスは、高速道路をまっしぐらに水と緑と鳥の浮島へと走った。オオヨシゴイをみたい、オオセッカをみたい、ツバメチドリをみたいと、皆の頭の中はみたい鳥、聞きたい鳥の声で溢れていて、まるでふくらんだ期待が道路を走っているようであった。



オオヨシキリ (渡辺 敦)

バスを下りた。草丈を伸ばし青々と広がる水田に、やさしい色をしたアマサギが群れている。それに何と、目の前の水田にオオヨシゴイが2羽。雄と雌。こんなに簡単にみられるなんて。何とか雌

に寄り添いたいと、苦勞に苦勞を重ねている雄の姿が印象的である。

空には3羽のツバメチドリ。全くツバメそのものを思わせる飛び姿をして、腰の白さが目立つ。遠くへ飛び降りたのをプロミナで覗くが、近くへ来て欲しいとの思いがしきり。

(あとで近くで見ました。)とにかく夢中で見ていて、それ迄は声には気付かない世界であった。

振り返ると、道路をはさんで反対側は一面の芦原。多くの小鳥のさえずりがきこえる。草原に点々と咲くあやめの数ほど目立ちたがり屋の黒い頭のコジュリンの姿が見える。草原に沿う道を行くと、さえずりは一層高くなり、小鳥達はいへん多忙で、口に青虫や巣材をくわえ、人間にはおかまいなく盛んに飛んでいる。オオヨシキリは道に伸びた枝の真正面に止り、至近距離で真赤な口を大きく開け、何しに來たのだときょうぎょうしく鳴く。見ることがむずかしいというオオセツカもみた。

誰もが満足であった。

白頭鶯の英名講座 第7回

オオヨシキリ コヨシキリ

今回は季節に合わせて、ちょうど初夏から夏にかけて、ごく一般的に見られるヨシキリをとりあげました。

オオヨシキリ Great Reed Warbler  
コヨシキリ Black-browed Reed Warbler  
両者とも、ヒタキ科ウグイス亜科の鳥で、いわゆるWarbler(ワーブラー)の仲間です。

漢字では、大葦切 または 大葦切  
小葦切 または 小葦切

と表記されます。和名では、葦原で、大きな口をあけて気ぜわしくさえずる鳥を、その大ききで分類し、大型をオオヨシキリ、小型をコヨシキリとしています。

英名では、「葦原でさえずる鳥」の意を前面に出して、やはり形の大きいオオヨシキリには「大」を意味する"Great"をつけ「大型の、葦原でさえずる鳥」とし、コヨシキリの方は、眉の色の特徴をとらえ、"Black-browed"「黒い眉の」"Reed Warbler"「葦原

でさえずる鳥」となっています。

実際には、コヨシキリは、私にはどう見ても、「白い眉」の上に黒い縁どりがある様に見えます。

ウグイス類を総称して、Warbler(ワーブラー)と呼びます。日本では17種が記録されています。姿、形が酷似しており、識別は困難ですが、声には特徴があり、一声鳴いてくれば、ただちに分かるといわれます。

アメリカなどでは、特にWarbler Watcher(ワーブラーウォッチャー)といってWarbler類を集中的に楽しむ人たちがいるとのこと。識別の困難なシギ・チドリ類に挑戦するシギチファンと同じ心理からでしょう。

バードウォッチングを楽しむひとつの方法として、自分の得意な分野を発見してその線を勉強し、その分野については、「おれに任せさせておいて！」といえるものを持つのも良いと思います。



# 野鳥情報

ササゴイ ◇4月27日、戸田市道満調節池で1羽(高橋美保子)。

サギ(コロニー) ◇4月30日、戸田市道満調節池の中州でコサギとゴイサギがコロニーをつくり営巢中(森永徳一)。

ノスリ ◇5月2日、秩父市美の山で1羽(山岸昭治)。

チョウゲンボウ ◇3月15日、熊谷市三ヶ尻で2羽。交尾を確認。3月30日頃より巢のある建屋入り口付近で1羽見張り状態が続く(卵を生んだと思われる)。5月16日、1羽巣立ちの幼鳥を確認。昨年は2羽巣立った(山口輝雄)。◇4月25日、戸田市道満グリーンパーク浄水場の草原で1羽(森永徳一)。

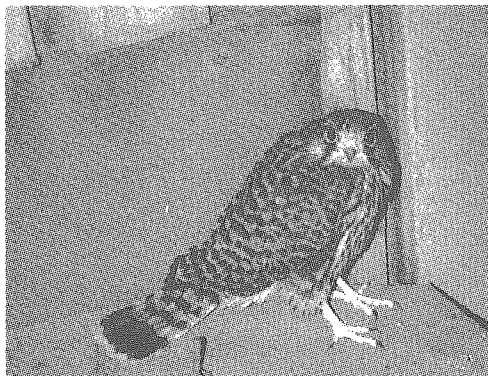
コチドリ ◇4月24日、大宮市宝来の老人ホーム前の畑で抱卵中。留守のときフィールドスコープで観察すると卵4個(佐藤進)。

ムナグロ ◇4月24日、浦和市秋ヶ瀬B区で20~30羽(福井亘)。

トウネン ◇4月24日、本庄市の阪東大橋下流で夏羽1羽(井上幹男)。

ハマシギ ◇4月16日、川越市の伊佐沼で29羽(中司隆由)。◇5月3日、志木市の柳瀬川、高橋~栄橋間の中州で腹の黒い夏羽8羽(中司隆由)。

キアシシギ ◇4月30日、本庄市の阪東大橋下流で7羽(井上幹男)。◇4月29日、戸田市道満調節池で1羽(高橋美保子)。



チョウゲンボウ幼鳥 (山口 輝雄)

◇5月1日、志木市の柳瀬川、高橋~栄橋間で4羽(中司隆由)。

チュウシャクシギ ◇4月24日、浦和市秋ヶ瀬B区で1羽(福井亘)。◇5月2日、本庄市の阪東大橋下流で21羽。ハヤブサに追われ右往左往。ここで一度にこんなに見たのは初体験(町田好一郎)。

アカエリヒレアシシギ ◇4月30日、北本市の荒川、高尾冠水橋上流で1羽。流れに乗ってエサを採り、上流に舞い戻るのを繰り返していた(内藤義雄)。

ツバメチドリ ◇5月1日、本庄市の阪東大橋下流で5羽。コアジサシと共に「クリックリック」と鳴きながらフライトしていた(町田好一郎)。

アジサシ ◇4月30日、戸田市道満調節池で1羽(高橋美保子)。

コアジサシ ◇4月30日、羽生市の宝蔵寺沼で3羽(内藤義雄)。

アオバズク ◇5月3日、浦和市秋ヶ瀬のピクニックの森で1羽(佐藤進)。

フクロウ ◇4月24日夕方、秩父湖周辺で1羽。(田口浩司)。

アマツバメ ◇5月1日、菖蒲町の神明神社付近で1羽。上空を低く飛ぶ(内藤義雄)。◇5月3日、寄居町寄居で3羽(石井幸男)。

アオゲラ ◇4月22日、秩父市の羊山公園で♂♀各1羽(山岸昭治)。

アカゲラ ◇4月26日、寄居町の鐘撞堂山で1羽(小淵健二)。

サンショウクイ ◇4月28日、浦和市秋ヶ瀬の子供の森で2羽(佐藤進、渡辺喜八郎)。

コルリ ◇5月3日早朝、浦和市秋ヶ瀬のピクニックの森で1羽。目前で3分位さえずる。その姿の美しさに見惚れ、さえずりに聞きいる(佐藤進)。

トラツグミ ◇4月26日、秩父市の羊山公園で鳴き声を聞く(山岸昭治)。

クロツグミ ◇4月26日、寄居町の鐘撞堂山で1羽。さえずっていた(小淵健二)。

◇4月30日、浦和市秋ヶ瀬のピクニックの森で1羽。さえずりを頼りに、やっとの思いで探し当て、しばし見とれる(佐藤進)。

◇5月2日、秩父市美の山で♂1羽(山岸昭治)。◇5月2日、熊谷市大麻生の野鳥の森で♂1羽(菱沼一充・洋子)。

アカハラ ◇4月24日、大宮市日進1丁目では♀各1羽。草地をおおむねベアーで行動する(浅見健一)。◇4月26日、浦和市秋ヶ瀬で1羽。ゴルフ場裏の排水溝で水浴びをする(横山初夫)。◇4月26日、行田市のさきたま古墳で5羽以上(逸見嶮)。

エゾムシクイ ◇4月25日、上尾市の中分水川神社の森で1羽。細い高い声で「ヒーツキー」。センダイムシクイと一緒にさえずる(立岩恒久)。◇4月25日、行田市のさきたま古墳で1羽(逸見嶮)。◇5月1日、寄居町の鐘撞堂山で1羽(小淵健二)。

センダイムシクイ ◇4月30日、浦和市秋ヶ瀬の子供の森で2羽(佐藤進)。◇5月1日、秩父市の羊山公園で1羽(山岸昭治)。◇5月1日、大宮市日進1丁目では1羽(浅見健一)。◇5月1日、熊谷市大麻生の野鳥の森で2羽(菱沼一充・洋子)。◇5月1日、寄居町の鐘撞堂山で1羽(小淵健二)。◇5月1日、大宮市堀崎町で1羽(藤原寛治・真理)。◇5月3日、坂戸市城山の雑木林で1羽(増尾隆)。

キビタキ ◇4月28日、浦和市秋ヶ瀬のピクニックの森で1羽。ビデオ撮影に成功(佐藤進)。◇4月28日、行田市のさきたま古墳で1羽(逸見嶮)。◇4月30日、浦和市秋ヶ瀬の子供の森で1羽。長いさえずりを心ゆくまで堪能する(佐藤進)。◇4月30日、加須市浮野の里の雑木林で♀1羽(内藤義雄)。◇5月1日、熊谷市大麻生の野鳥の森で♂1羽(菱沼一充・洋子)。◇5月3日、秩父市の羊山公園で♂1羽。まだ余りうまくない(山岸昭治)。◇5月3日、坂

戸市城山の雑木林で♂1羽(増尾隆)。

オオルリ ◇4月25日、浦和市秋ヶ瀬の子供の森で♂1羽(鈴木啓紀)。◇4月27日、秩父市の羊山公園で♂1羽。やっと来ました。美しい声と姿で(山岸昭治)。◇4月30日、浦和市秋ヶ瀬のピクニックの森で♂1羽。目前で30分位さえずる。その姿の美しさに見ほれ、さえずりに聞き入り、しばし吾を忘れておとぎの世界へ(佐藤進)。

◇5月1日、熊谷市大麻生の野鳥の森で♂1羽(菱沼一充・洋子)。

コサメビタキ ◇4月25日、秩父市美の山で4羽(山岸昭治)。◇4月26日、行田市のさきたま古墳で1羽(逸見嶮)。

エナガ ◇4月25日、都幾川村の慈光寺で5羽(内藤義雄)。◇5月1日、寄居町の鐘撞堂山で7羽。ヒナと成鳥が一緒でした(小淵健二)。◇5月2日、秩父市美の山で多数。幼鳥が多い(山岸昭治)。

ヤマガラ ◇5月1日、熊谷市大麻生の野鳥の森で2羽(菱沼一充・洋子)

クロジ ◇4月24日、大宮市日進1丁目では♂3羽(浅見健一)。◇5月1日、菖蒲町の神明神社で♀1羽(内藤義雄)。◇5月1日、熊谷市大麻生の野鳥の森で♂1羽(菱沼一充・洋子)。

アトリ ◇5月1日、熊谷市大麻生の野鳥の森で♀1羽(菱沼一充・洋子)

マヒワ ◇4月26日、秩父市の羊山公園で約150羽の群れと50羽の群れ(山岸昭治)。

シメ ◇5月2日、秩父市美の山で約10羽の小群が2組(山岸昭治)。

ニューナイスズメ ◇5月1日、熊谷市大麻生の野鳥の森で約15羽(菱沼一充・洋子)。

コムクドリ ◇4月26日、戸田市の戸田公園で♀1羽(高橋達也)。

## 表紙の写真

ネイチャーフォトコンテスト1992 入選作

### バン (クイナ科)

私のフィールドのひとつに、戸田市の道満グリーンパークの池があります。奥行きが20mもないような狭いところですが、毎年バンが何つがいかが繁殖していて、双眼鏡なしでも、はっきりと観察することが出来ます。

6月から7月にかけて出かけると、まだ真っ黒なうぶ毛におおわれた雛から、この写真のような若鳥など、さまざまな成長段階のバンを見ることが出来ます。

登坂久雄 (八王子市)

# 行事あんない



## 北本市・石戸宿定例探鳥会

期日：8月1日（日）

集合：午前8時30分 北本観察公園駐車場

交通：JR高崎線北本駅西口よりリーダーの指示に従ってタクシーに分乗して下さい。駅には午前8時15分ごろまでにお越し下さい。

担当：岡安征也、榎本秀和、内藤義雄、吉原俊雄、立岩恒久、関口善孝

見どころ：鳥たちが影をひそめる盛夏は、リーダー泣かせの季節。それでも昨年は、コジュケイやサシバなどが登場しました。野鳥のために、日夜努力を続ける石戸宿のリーダーたちを、天は今年も見放さない！...はずです。

## 熊谷市・大麻生定例探鳥会

期日：8月8日（日）

集合：午前9時30分 秩父鉄道大麻生駅前

交通：秩父鉄道熊谷9:20発または寄居9:03発に乗車

担当：菱沼一充、森本國夫、林滋、関口善孝、菱沼洋子、斉藤比佐実、塚本典子、中島章二

見どころ：真夏の太陽、青い空と入道雲。大麻生は夏まっさかり。しかし、キアシシギのひと声にふりむけば、次の季節の兆しが、そこそこに。あなただけの秋を探してみましょう。

## 浦和市・三室地区定例探鳥会

探鳥会への参加は、特別な場合を除いて予約申込みの必要はありません。受付は探鳥会当日。参加費は一般100円。会員及び中学生以下50円。持ち物は、筆記用具、雨具、昼食、ゴミ袋、もしあれば双眼鏡など。小雨決行です。解散時刻は、特に記載のない場合、正午から午後1時ごろになります。

◇はじめて探鳥会に参加される方へ◇

集合場所へ着いたら、まず“日本野鳥の会埼玉支部”の旗か、青い腕章をつけた担当者を探して、遠慮なく声をおかけ下さい。私達もあなたを探していますので、ご心配なく。

期日：8月15日（日）

集合：午前8時15分 京浜東北線北浦和駅東口（集合後、バスで現地へ）または、午前9時 浦和市立郷土博物館前

後援：浦和市立郷土博物館

担当：楠見邦博、福井恒人、渡辺周司、手塚正義、伊藤芳晴、笠原伸子、田口浩司、馬場昇、岡部泰三、嶋田和江

見どころ：夏休み！田舎のある人は田舎へ、別荘のある人は別荘へ... 田舎も別荘もないリーダーは、浦和の軽井沢？で皆さんをお待ちしています。親子そろって、身近な田舎へ遊びに来て下さい。

## 千葉県・谷津干潟探鳥会

期日：8月22日（日）

集合：午前9時10分 JR京葉線南船橋駅前

交通：JR武蔵野線北朝霞8:04、南浦和8:14、南越谷8:25、南船橋9:02着

担当：佐久間博文、篠原東彦、杉本秀樹

見どころ：シギやチドリ冬羽は、一見涼しげ。でも、見ているうちに「キミはいい、誰なんだ!？」と、頭の中が熱く暑くなってくる。だからこそ、解散後の冷たい飲み物がおいしい！

注意：帽子、飲み物をお忘れなく。

## ワイワイガヤガヤVTRを楽しむ会

とき：8月22日（日）午後1時～午後4時頃

会場：袋づめの会と同じ

担当：伊藤芳晴、町田好一郎、菱沼一充



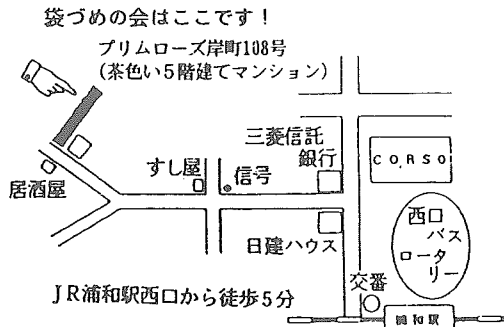
案内：この会に参加したら、もう、確実にビデオがほしくなってしまいます。今のうちに、ご家庭の大蔵大臣と、よく相談して予算案を通しておいた方が良くかもしれません。

### 『しらこぼと』袋づめの会

とき：8月28日（土）午後1時～2時ごろ  
会場：支部事務局隣の108号室

### 野鳥写真クラブ定例会

とき：8月28日（土）午後2時～5時  
会場：『しらこぼと』袋づめの会と同じ



### 初級リーダー研修会

とき：8月29日（日）午前9時～午後4時  
会場：埼玉県民活動総合センター（伊奈町）

申し込み：支部事務局または中島普及部長まで。

案内：望遠鏡にはいったムクドリを、知らないオバさんに見せてあげた。オバさん、とても喜んでた。ムクドリなんて珍しくもないのに。でも、なんだか私まで、うれしくなっちゃった。こういう経験、小さいけれど、心のダイヤモンドって感じ……さあ、あなたも一緒にダイヤモンド探し、してみませんか？

受講資格：埼玉県支部会員であること。

### 本庄市・阪東大橋探鳥会

期日：9月5日（日）

集合：午前9時 JR高崎線本庄駅北口（集合後、バスで現地へ）

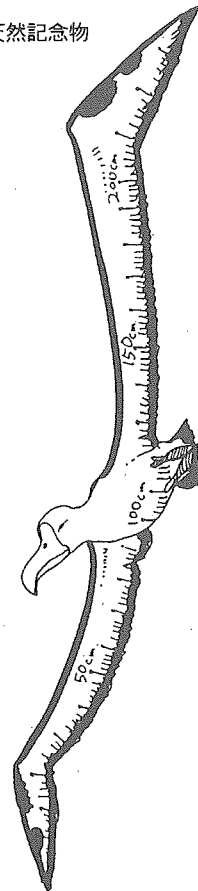
交通：JR高崎線大宮7:41発に乗車

担当：町田好一郎、林滋、小淵健二、小野沢満

見どころ：今年の春のシギ・チドリは大当り。そっくりそのままリターンしてくれば……と、世界中の神様をお願いしたいところ。ツバメたちと赤とんぼの華麗な競演も見もの。あとは、お天気とあなたの心がけ次第。

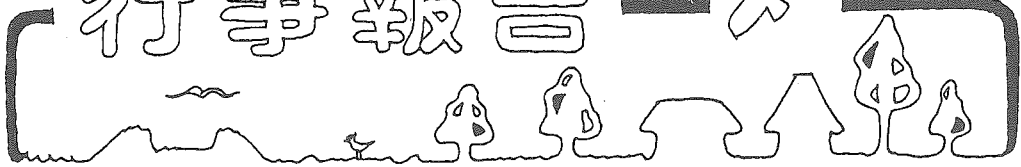
- 9月11日（土） 秋ヶ瀬探鳥会
- 9月12日（日） 大麻生定例探鳥会
- 9月15日（水・祝） シギ・チドリ一斉調査
- 9月19日（日） 三室地区定例探鳥会
- 9月23日（木・祝） 鐘撞堂山探鳥会
- 9月26日（日） 入間川定例探鳥会

アホウドリ 特別天然記念物  
ミズナギドリ目  
アホウドリ科  
全長90cm



（富士鷹なすび）

# 行事報告



1月9～10日(土～日) 宮城県 伊豆沼

参加: 23人 天気: 曇、晴

カイツブリ ダイサギ コサギ アオサギ  
マガン ヒシクイ オオハクチョウ コハク  
チョウ マガモ カルガモ コガモ オナガ  
ガモ ハシビロガモ ホシハジロ キンクロ  
ハジロ ホオジロガモ ミコアイサ カワア  
イサ トビ オジロワシ オオタカ ハイタ  
カ ノスリ チュウヒ マダラチュウヒ ハ  
ヤブサ コチョウゲンボウ チョウゲンボウ  
キジ オオバン タゲリ ツルシギ クサシ  
ギ ユリカモメ セグロカモメ ウミネコ  
キジバト カワセミ ヒバリ ハクセキレイ  
セグロセキレイ ヒヨドリ モズ ジョウビ  
タキ ツグミ ウグイス エナガ ヤマガラ  
シジュウカラ メジロ ホオジロ カシラダ  
カ アオジ オオジュリン アトリ カワラ  
ヒワ ベニマシコ シメ スズメ ムクドリ  
カケス ハシボソガラス ハシブトガラス  
(63種) 1日目に行った蕪栗沼では、マダラ  
チュウヒや、田圃に下りたオジロワシを存分  
に見ることが出来た。又、周辺の田圃には数  
百羽の群れのマガンが何群も見られた。伊豆  
沼は、夕方に沼に帰る数千羽のマガンが丘巻  
で、朝の飛び立ちも間近に見られ、すばらし  
かった。他には、オジロワシやハヤブサ、ベ  
ニマシコなど63種もの鳥を見ることが出来、  
参加者全員十分満足。(中島康夫)

1月30～31日(土～日) 千葉県 銚子港

参加: 30人 天気: 快晴

ハジロカイツブリ アカエリカイツブリ カ  
ンムリカイツブリ ウミウ ヒメウ コサギ  
コクガン マガモ カルガモ オカヨシガモ  
ヒドリガモ アメリカヒドリ オナガガモ  
ハシビロガモ ホシハジロ キンクロハジロ  
スズガモ シノリガモ ウミアイサ トビ

チョウゲンボウ ミヤコドリ シロチドリ  
ダイゼン ハマシギ ミユビシギ ユリカモ  
メ セグロカモメ カナダカモメ オオセグ  
ロカモメ ワシカモメ シロカモメ ウミネ  
コ ズグロカモメ ミツユビカモメ キジバ  
ト ハクセキレイ タヒバリ ヒヨドリ イ  
ソヒヨドリ ツグミ メジロ ハギマシコ  
スズメ ムクドリ ハシボソガラス(46種)  
「防寒」を呼びかけていたリーダーが、ウソ  
つき呼ばわりされるほどの陽気となった二日  
間。まず寄った船橋海浜公園では、生きてい  
る干潟を実感しながらの充実の探鳥。ミヤコ  
ドリ、コクガン、ズグロカモメも簡単に見つ  
かった。午後からの波崎新漁港と翌朝の銚子  
港の探鳥会では、カモメ類を思う存分楽しむ。  
しかも、識別の難しいカナダカモメまで見つ  
けてしまうほどの幸運に恵まれた。おまけで  
寄った犬吠埼でもハギマシコが出るなど、ど  
こへ行っても大当たり。その二日間を、ビデオ  
撮影してくださった町田さん、どうもありが  
とう。(榎本秀和)

2月13日(土) 蓮田市 黒浜沼

参加: 25人 天気: 晴

カイツブリ カワウ コサギ カルガモ コ  
ガモ タゲリ タシギ キジバト ハクセキ  
レイ セグロセキレイ タヒバリ ヒヨドリ  
モズ ジョウビタキ ツグミ シジュウカラ  
メジロ ホオジロ カシラダカ アオジ カ  
ワラヒワ スズメ ムクドリ カケス ハシ  
ボソガラス ハシブトガラス(26種) 2月に  
しては暖かい絶好の探鳥会日和。冬枯れの田  
圃では、タゲリ数羽とタシギがよく見られ、  
初めて見る方も多く、大変喜んでた。黒浜  
沼は、土、日は釣人が多く、以前に比べてカ  
モの数がめっきり少なくなった。又、釣人が  
捨てて行くゴミが多く、困りものだ。「黒浜

沼を大切に作る会」の人が、時々ゴミの清掃を行っている。釣人も「ゴミは家に持ち帰る」を実行してほしいものだ。(中島康夫)

2月14日(日) 茨城県 畜生沼

参加: 37人 天気: 晴

カイツブリ カワウ ダイサギ コサギ アオサギ ヒシクイ コハクチョウ ホシハジロ イカルチドリ タゲリ キジバト コゲラ ヒバリ ハクセキレイ セグロセキレイ タヒバリ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ シロハラ ツグミ エナガ シジュウカラ ホオジロ カシラダカ アオジ カワラヒワ シメ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス(32種) 晴天だったが、風が強くて鳥が全然出ず、リーダーはあせった。沼に着けば、なんとかなると思っていたら、工事のため水がなくてカモ1羽おらず又ガックリ。最後のポイント北側の沼に移動。ようやく百数十羽のコハクチョウとヒシクイ1羽が見られ、なんとか探鳥会としての格好がついた1日だった。(中島康夫)

3月13日(土) 北川辺町 渡良瀬遊水池

参加: 42人 天気: 晴

カンムリカイツブリ カワウ コサギ マガモ カルガモ コガモ ヨシガモ ヒドリガモ アメリカヒドリ オナガガモ ハシビロガモ ホシハジロ ミコアイサ カワアイサ トビ ハイイロチュウヒ チュウヒ ハヤブサ キジ イカルチドリ シロチドリ タゲリ ツルシギ タシギ セグロカモメ キジバト ヒバリ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ ツグミ ホオジロ オオジュリン カワラヒワ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス(39種) 広大な渡良瀬は、車で参加された方のご好意に甘え、分乗させて頂いて各ポイントを巡っている。今回も車で移動中、道路に下りているハイイロチュウヒの♂を先頭集団の方は見ることが出来た。他には、ハヤブサやチュウヒも見られた。貯水池では、カンムリカイツブリ、ミコアイサ、ヨシガモ、アメリカヒドリなど沢山のカモが見られた。これ以上開発さ

れないよう、見守っていかねば。(中島康夫)

4月4日(日) 川口市 差間

参加: 21人 天気: 曇

カワウ コサギ カルガモ コガモ オナガガモ コジュケイ タシギ ユリカモメ キジバト コゲラ ヒバリ ツバメ イワツバメ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ ツグミ ウグイス シジュウカラ メジロ ホオジロ アオジ オオジュリン カワラヒワ シメ スズメ ムクドリ オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス(31種) 木々は芽吹き始め、桜は見ごろ。田圃には、セリ摘みの人がいて、のどかな春の1日。通船堀では、しきりにえさを探すシメを間近に見て、芝川では、夏羽になったユリカモメ、上空を見上げると、ツバメ、イワツバメがスイスイ。去ってゆく冬鳥、戻ってきた夏鳥を、満開の桜と共に楽しんだ。(手塚正義)

4月11日(日) 熊谷市 大麻生

参加: 58人 天気: 晴

カイツブリ カワウ ダイサギ コサギ アオサギ マガモ カルガモ コガモ トビ ハイタカ コジュケイ キジ コチドリ イカルチドリ シロチドリ イソギキジバト アマツバメ カワセミ キツツキSP ヒバリ ツバメ ハクセキレイ セグロセキレイ タヒバリ ヒヨドリ モズ ルリビタキ ツグミ ウグイス シジュウカラ メジロ ホオジロ カシラダカ アオジ カワラヒワ マヒワ シメ ニュウナイスズメ スズメ ムクドリ カケス ハシボソガラス ハシブトガラス(44種) ここ数日の寒さで桜の花も散らず、先週に続いてお花見探鳥会となった。ゴルフ場の疎林で、早速お目当てのニュウナイスズメを見つけた。畑では、キジのオスが全員に姿を堪能させてくれた。野鳥の森には、ムラサキケマン、ヤマブキ、タチツボスミレが咲いており、植物の好きな人を楽しませてくれた。珍しくルリビタキのメスが出てくれたが、狭い森の中で全員が観察できず残念!しかし、マヒワとカワセミがその分をおぎなってくれた。(菱沼一充)

連絡 中長

●ネイチャーフォトコンテスト1993 作品募集

〔作品対象〕①野鳥部門：県内に生息する野鳥 ②その他の部門：風景・昆虫・植物など、県内の自然を表現する作品

〔規格〕明らかに県外の撮影とわかるもの・組写真・パノラマ写真不可。35mmのネガまたはスライドのみ。

〔募集期限〕9月10日まで

〔応募資格〕当支部会員

〔応募方法〕キャビネくらのプリントに、タイトルと種名、20字くらのコメントを添え、スライド原版または、ネガとともに支部事務局まで

〔選考方法〕役員会で審査し、30点入選

〔作品取り扱い〕入選作品・選外作品とも、プリントはお返しできません。入選作は今年も11月に予定しているパネル展で展示するほか、『しらこぼと』の表紙など、さまざまな支部活動に1年間使用させていただきます、1年たちましたら、原版などはお返しします。

〔ご注意〕マナーに反する方法で撮影された作品は、一切受け付けません。

昨年のお応募総数は、73点でした。今年もたくさんのお応募をお待ちしています。

●応援してください、バードソン

10月31日(日)のバードソン1993に、久しぶり支部公式チームが参加することになりました。登坂久雄をキャプテンに、佐久間博文、菱沼一充、手塚正義という、計4名の若手(?)幹事が集まりました。

チーム名は、『埼玉レッズバーダー』。つい応援したくなる名前です。詳しくはまたお知らせします。どうぞよろしく。

●学校授業で講演と観察会

鴻巣市立鴻巣中学校1年8組の授業で、岡安征也幹事が講師となって、自然との共存などについての講演と、ツミなどの観察会を実施。佐藤進会員も手助けしました。

●ご寄付と支部賛助会費

海老原美夫12,500円、笠井実10,000円、草間和子賛助会費 8,000円、佐久間博文 2,500円、総会懇親会 3,058円、田村陽一郎切手62円60枚、銚子港探鳥会12,547円、戸隠探鳥会 21,359円、馬場友里恵賛助会費 8,000円と寄付金、2,000円、宮崎章次賛助会費 8,000円と寄付金 2,000円。ありがとうございました。(50音順、敬称略)

●8月の土曜日当番(2時~6時)

7日 中島康夫 楠見邦博(普及部会議)  
14日 山部直喜 海老原美夫(編集会議)  
21日 阿久沢キクエ 石川敏男(校正の日)  
28日 袋づめの会(1時から)

●会員数は

7月1日現在 2,276人です

活動報告

5月31日 『しらこぼと』6月号を浦和中郵便局から発送作業(毎月袋づめの会の翌々日の月曜日に、事務局が運びます)。  
6月12日 編集会議(7月号編集作業)。  
6月19日 7月号校正作業。  
6月20日 役員会議(司会・内藤義雄、探鳥会予定・総会準備・その他)。  
6月26日 総会資料作成など。  
6月27日 役員会議(司会・海老原美夫、5年度役員構成)。

編集後記

'93年から「鳥の生息環境モニタリング調査」が始まり、当支部でも武蔵丘陵森林公園を手始めに継続調査します。生息環境としての森林や湖沼などの植生調査と繁殖期や越冬期の生息分布図を描く本格的な鳥類生態調査です。ご自身のフィールドで観察されている方、繁殖期や越冬期の鳥の行動を知りたい方、雑木林など郷土に残されている自然の本格的な調査をしてみたい方など、調査に参加希望の方は研究部までお知らせください。(小荷田)

『しらこぼと』1993年8月号(第112号) 定価 100円(会員の購読料は会費に含まれます)  
発行人 松井昭吾 編集発行 日本野鳥の会埼玉県支部 TEL 048-832-4062 FAX 048-825-0460  
〒336 浦和市岸町4丁目26番8号 プリムローズ岸町107号 郵便振替 東京9-121130  
印刷 関東図書株式会社 (本誌掲載記事の無断転載はかたくお断わりします)